

# 公共交通 メールマガジン

令和元年  
7月12日発行  
第67号

編集：国土交通省  
総合政策局交通政策課



平素より、当メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。  
今回は以下のラインナップでお送りいたします。



【組織改編情報】 7月1日より「公共交通・物流政策審議官」部門が発足しました  
(総合政策局 交通政策課)



令和元年版交通政策白書が完成！  
(総合政策局 交通政策課)



MaaS（マース）について、先進的な取組を選定しました！！  
(総合政策局 モビリティサービス推進課)



「グリーンスローモビリティシンポジウム 2019」を開催しました  
(総合政策局 環境政策課)



「地域公共交通セミナー（春期）」を開催しました  
(中部運輸局 愛知運輸支局)



「視覚障がい者サポート講座」を開催しました  
(四国運輸局)



のりたろうも大活躍！「第19回 スルッとKANSAI バスマつり」  
(近畿運輸局)



『のりたろう』船旅・公共交通の関心度アップに貢献！ in 関空旅博2019  
(近畿運輸局)



のりたろう活動報告  
(第12回やまぐちバス博&平成31年度公共交通マナーアップキャンペーン)  
(中国運輸局)

#### <掲示板>

- ☆ 地域公共交通支援センターについて
- ☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

#### 【ご案内】

今年も、こども霞が関見学デーにのりたろうが登場します！  
ぜひ国土交通省まで会いに来てにゃ！

期間：8月7日（水）、8日（木）

こども霞が関見学デー特設ページ

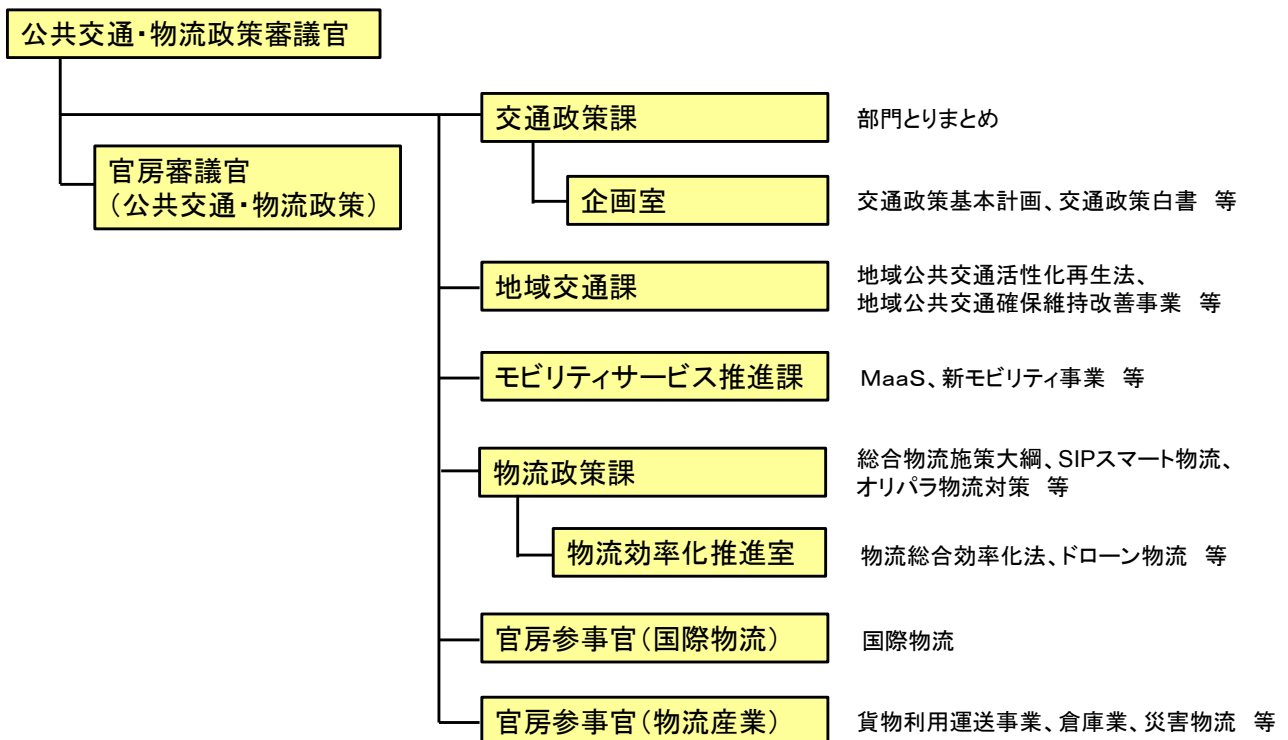
[http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01\\_hy\\_006924.html](http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_006924.html)



**【組織改編情報】 7月1日より「公共交通・物流政策審議官」部門が発足しました**  
(総合政策局 交通政策課)

この度、国土交通省組織令等の改正（令和元年7月1日付）により、利便性が高く効率的な交通・物流サービスの実現に向け、公共交通・物流の効果的な連携体制を整備するため、「公共交通・物流政策審議官」が新たに設置されました。これに伴い、「公共交通政策部」については「物流審議官」部門と統合し、新たに「公共交通・物流政策審議官」部門として発足しましたので、お知らせいたします。

**【公共交通・物流政策審議官部門の組織】**



また、組織改編に伴い、執務室が移転となりましたので、併せてお知らせいたします。

【旧】 部屋番号： 3 3 7 (外務省側)

【新】 部屋番号： 3 1 3 (皇居側) ※フロア (合同庁舎 3号館 3階) に変更はありません

**【人事情報】**

7月の人事情報 (公共交通部門) をお知らせします。

<令和元年7月1日付>

大臣官房公共交通・物流政策審議官 瓦林 康人

(前職：大臣官房総括審議官 (併) 観光庁)

大臣官房審議官 (交通・物流政策) 金井 昭彦

(前職：大臣官房審議官 (併) 国土政策局、(併) 観光庁、(併) 航空局)

総合政策局交通政策課長 蔵持 京治

(前職：総合政策局公共交通政策部交通計画課長) ※組織改編による配置換

総合政策局地域交通課長 片山 敏宏

(前職：総合政策局公共交通政策部交通支援課長) ※組織改編による配置換

総合政策局モビリティサービス推進課長 小熊 弘明

(前職：総合政策局公共交通政策部参事官(総合交通)) ※組織改編による配置換

四国運輸局交通政策部長 軸丸 真二

(前職：文化庁政策課文化発信室長)

<令和元年7月9日付>

総合政策局モビリティサービス推進課長 重田 裕彦

(前職：大臣官房人事課企画官(併)大臣官房企画官)

中部運輸局交通政策部長 苔口 聖史

(前職：観光庁国際観光課外客誘致推進官)

# 令和元年版交通政策白書が完成！

(総合政策局 交通政策課)

令和元年版交通政策白書が、6月25日(火)に閣議決定、国会報告されました。

交通政策白書は、交通政策基本法(平成25年法律第92号)第14条第1項及び第2項の規定に基づき、交通の動向及び政府が交通に関して講じた施策並びに交通に関して講じようとする施策について国会に報告するもので、平成27年以来毎年作成されており、今年で5年目です。

概要は、以下のとおりです。

(概要)

## 第1部 交通の動向

交通を取り巻く社会・経済の動向、各分野の交通の輸送量・ネットワーク・交通事業の最新の動向について整理しています。

## 第2部 モビリティ革命～移動が変わる、変革元年～

毎年、特定のテーマを定めて特集を組んでいますが、今年版では「モビリティ革命」に焦点を当てました。地方部の輸送人員の減少や都市部の交通混雑への対応といった交通の課題を分析するとともに、技術革新による社会やサービスの変化について整理した上で、MaaS(マース。Mobility as a Service)や自動運転といった交通分野における様々な先進事例の動向を紹介しています。

## 第3部 平成30年度交通に関して講じた施策

## 第4部 令和元年度交通に関して講じようとする施策

様々な施策を定点観測している第3部、第4部では、「交通政策基本計画」(平成27年2月13日閣議決定)に盛り込まれた施策の進捗状況や今後の取組方針を整理しました。

交通政策白書に係る関係情報については、以下のホームページに掲載しておりますので、是非ご参照いただければと思います。

【報道発表資料】「平成30年度交通の動向」及び「令和元年度交通施策」(交通政策白書)について

[https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo22\\_hh\\_000017.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo22_hh_000017.html)


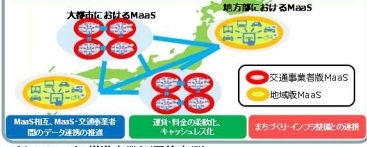


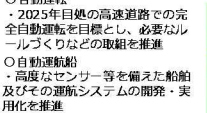

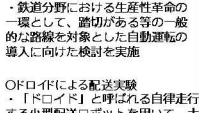



## 令和元年版交通政策白書について



### 第1部 交通の動向

<b>【旅客輸送】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>国内旅客輸送は、鉄道や乗合バスは緩やかな増加傾向にあり(鉄道:約14%増(2005→2017)、乗合バス:約2%増(2005→2017))。航空はリーマンショック後、国内線LCCの参入等により回復し、ここ数年は増加傾向にある。一方で、旅客数は減少傾向にあり、タクシーは長期にわたる減少が続いている(タクシー:約39%減(2005→2017))。</li><li>国際航空旅客輸送は、ここ数年、訪日外国人旅行者の急増に伴い増加している(国際線LCCシェア:0.4%(2007)→21.7%(2017))。</li></ul>	<b>【貨物輸送】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>国内貨物輸送は、リーマンショックの影響で急減した後は概ね安定的に推移している。モーダルシフトの影響による鉄道貨物の増加のほか、宅配取扱取扱数が、インターネット通販市場の拡大により大幅に増加している(宅配取扱取扱約12.5億個(1993)→約42.5億個(2017))。</li><li>国際貨物輸送は、リーマンショックによる落ち込みから回復した後、ここ数年においては、外航海運(コンテナ)、航空のいずれも増加傾向にある。(外航海運:約17%増(2005→2017)、国際航空貨物:約22%増(2005→2017))</li></ul>
---	---

### 第2部 モビリティ革命～移動が変わる、変革元年～(テーマ章)

<b>都市部と地方部の交通の課題</b> <ul style="list-style-type: none"><li>人口減少と急激な少子高齢化が進み、輸送人員の減少、公共交通サービスの減少が進展(乗客1人当りの輸送人員が2009年から2016年で約24%減少)</li><li>都市部への人口流入や訪日外国人旅行者の増加等を背景に輸送人員が増加し、交通の混雑等の負の社会的影響が課題(東京都心(鉄道)の旅行速度は約1.6km/hで全国平均(35km/h)の約半分)</li></ul>	<b>人手不足や環境・安全への対応の課題</b> <ul style="list-style-type: none"><li>交通事業の労働不足感が大きい(有給求人倍率(自動車運転の職業):約2.8倍(2017)、有給求人倍率(職業計):約1.3倍(2017))</li><li>環境負荷の軽減、より高い安全性の確保、多発・激甚化する災害への対応が必要(二酸化炭素排出量(運輸部門が占める割合):約17.9%(2017))</li></ul>	<b>技術革新による社会やサービスの変化への課題</b> <ul style="list-style-type: none"><li>情報通信機器の保有状況(世帯)において、スマートフォンがパソコンを上回る(スマートフォン:約51.1%(2017)、パソコン:約25.5%(2017))</li><li>AI技術は、社会のあり方に根本的な影響を与える可能性があり、Society5.0を実現していくことが必要</li></ul>
<b>MaaS(Mobility as a Service)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>多様な移動手法・サービスを組み合わせ、ワンストップでシームレスな1つの移動サービスとして提供するMaaSの実現に向けた取組が、様々な民間企業が参画し、グローバルに展開</li></ul> 	<b>地方部におけるMaaS</b> <ul style="list-style-type: none"><li>「ユニバーサルなMaaS」(MaaS相互の連携によるユニバーサル化)</li><li>「高付加価値なMaaS」(移動と多様なサービスの連携による高付加価値化)</li><li>「交通課題の整備等まちづくりと連携したMaaS」</li></ul>  <p>地方部におけるMaaS</p> <ul style="list-style-type: none"><li>交通事業者間MaaS</li><li>地域版MaaS</li></ul> <p>地方部におけるMaaS</p> <ul style="list-style-type: none"><li>MaaS相互、MaaS-交通事業者間のデータ連携の推進</li><li>運賃・料金の統廃合、キャッシュレス化</li><li>まちづくり・インフラ整備との連携</li></ul> <p>○新モビリティサービス推進事業(財源事業)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>都市部・地方部において、新たなモビリティサービスの創出を推進</li><li>スマートシティ等の取組と連携し、多様な地域での実証実験を政府が支援</li></ul>	<b>環境負荷低減の取組</b> <ul style="list-style-type: none"><li>電気自動車や燃料電池自動車・温室効果ガス排出削減等のため、電気や燃料電池自動車の次世代自動車の普及を促進</li><li>グリーンズローモビリティ<ul style="list-style-type: none"><li>電動で、時速20km未満で公道を走る4人乗り以上のパブリックモビリティ、高齢化が進む地方や観光地での活用を期待</li></ul><li>超小型モビリティ<ul style="list-style-type: none"><li>自動車より小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動手段となる乗り物、超高齢社会や地球温暖化環境問題等への対応における役割を期待</li></ul></li></li></ul>
<b>交通分野のデジタル技術導入</b> <ul style="list-style-type: none"><li>自動運転<ul style="list-style-type: none"><li>2025年目途の高速道路での完全自動運転を目標とし、必要なレールづくりなどの取組を推進</li></ul><li>自動運転船舶<ul style="list-style-type: none"><li>高度なセンサー等を備えた船舶及びその運航システムの開発・実用化を推進</li></ul><li>空港制限区域における自動走行<ul style="list-style-type: none"><li>羽田、成田、中部、仙台空港において、乗客・乗員等の輸送を想定した自動走行の実証実験を順次実施</li></ul></li></li></li></ul>	<b>鉄道の自動運転</b> <ul style="list-style-type: none"><li>鉄道分野における生産性革命の一環として、踏切がある等の一般的な路線を対象とした自動運転の導入に向けた検討を実施</li></ul>  <p>OFロイドによる配送実験</p> <ul style="list-style-type: none"><li>「ドローン」と呼ばれる自律走行する小型配送ロボットを用いて、大学キャンパス内における配達の試行実験を実施、コンシューマーへの商品受け渡しにおける人手不足の解消に期待</li></ul> 	<b>次世代に向けた取組</b> <ul style="list-style-type: none"><li>空飛ぶクルマ等<ul style="list-style-type: none"><li>都市部での送迎サービス、離島や山間部の新たな移動手段などにつながるものと期待</li></ul><li>次世代インフラ・まちづくり<ul style="list-style-type: none"><li>交通と不可分一体な道路や都市などのインフラ・まちづくりにおいても、最先端のモビリティ(自動運転等)を考慮した次世代に向けた取組が進展</li></ul></li></li></ul>

## MaaS（マース）について、先進的な取組を選定しました！

（総合政策局 モビリティサービス推進課）

皆さま、2019 年も半分終わりましたね。帰省や海外旅行など、夏休みの予定をそろそろ考えていらっしゃる方も多いと思いますが、そのとき、新幹線や飛行機を検索したり、予約したりするときに、もっと便利になればいいという思いを持たれる方も多いのではないのでしょうか？その手助けをする MaaS（マース。Mobility as a Service の略称（※）詳しくは過去のメルマガ記事をご覧くださいませ！）等について、先進的な取組を選定しました！

（※）MaaS については過去 3 回取り上げています。

- ・第 63 号のメールマガジン <http://www.mlit.go.jp/common/001267676.pdf>
- ・第 64 号のメールマガジン <http://www.mlit.go.jp/common/001271455.pdf>
- ・第 66 号のメールマガジン <http://www.mlit.go.jp/common/001288583.pdf>

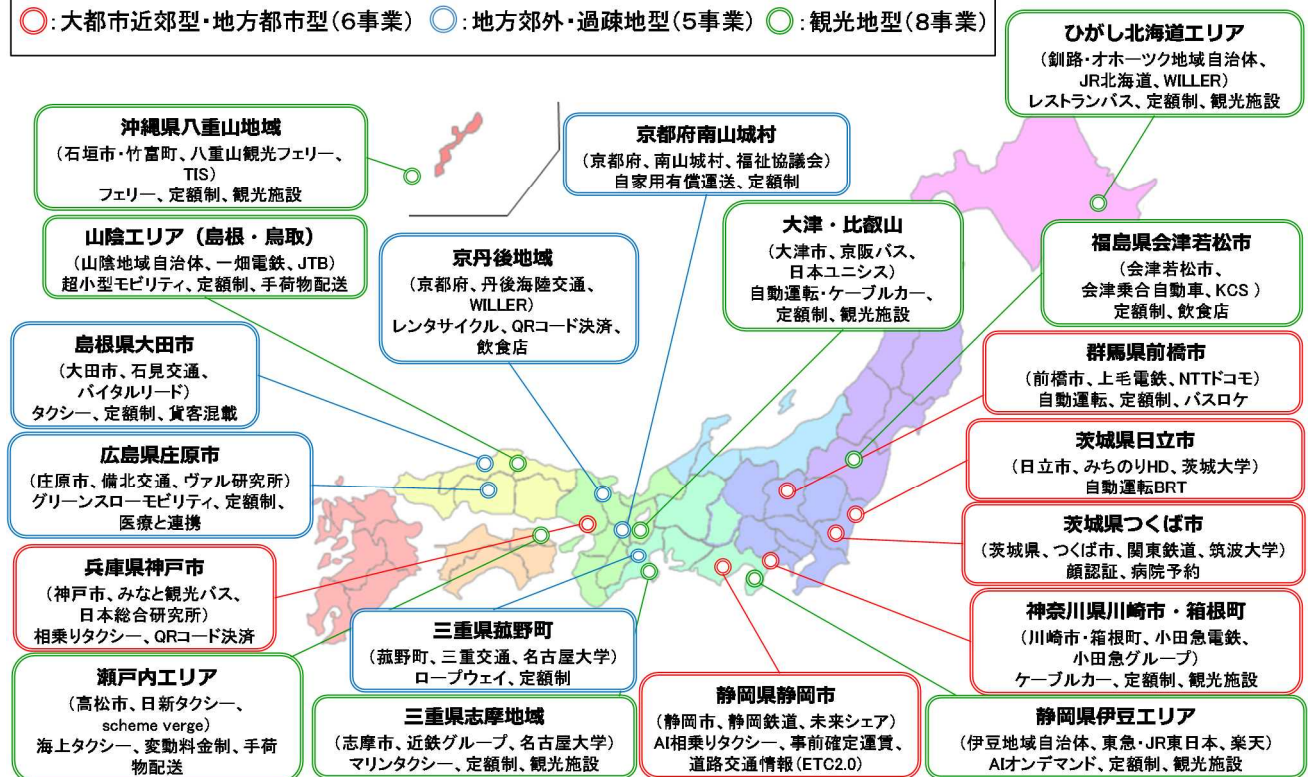
MaaS 等の新たなモビリティサービスについては、「新モビリティサービス推進事業」として、公募を行っていたところですが、全国から 51 の提案をいただきました。ありがとうございます！

その中でも、特に先駆的で他の模範となるような「先行モデル事業」として、大都市近郊型・地方都市型から 6 事業、地方郊外・過疎地型として 5 事業、観光地型として 8 事業の、合計 19 事業を選定しましたので、国土交通省としても支援していきたいと考えているところです。



## 新モビリティサービス推進事業 先行モデル事業

○：大都市近郊型・地方都市型(6事業) ○：地方郊外・過疎地型(5事業) ○：観光地型(8事業)



ただ、もちろん上の 19 事業以外にも様々な取組があり、「日本版 MaaS」の実現のためには、皆様の協力が必要です。これからもどうぞよろしくお願ひします！（本記事の詳細は下記リンクを！）

[https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12\\_hh\\_000150.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000150.html)

**「グリーンスローモビリティシンポジウム 2019」を開催しました。**  
(総合政策局 環境政策課)

地域が抱える様々な交通の課題の解決と、地域での低炭素型モビリティの導入を同時に進められるグリーンスローモビリティの推進に向けて、グリーンスローモビリティへの理解を深めていただくためのシンポジウムを6月13日に開催し、300名近くの方にお越し頂きました。



シンポジウム会場



グリーンスローモビリティ展示

基調講演では、大阪大学大学院の土井教授にグリーンスローモビリティによる豊かな時空間体験がもたらすまちづくりへの新たな期待や交通・移動の将来ニーズについてお話頂き、遅い交通が地域にどのような効果・影響をもたらすのかを講演いただきました。

先行導入地域の活用事例では、広島県福山市から、昨年の国土交通省の実証調査での住民の反応や実証後から4ヶ月という短期間でタクシー事業を開始したプロセスを発表頂き、事業化へのヒントを紹介していただきました。

でんき宇奈月(富山県黒部市)は、「環境に良く、歩行者が安心して散策できる温泉地」を目指し、E<sup>+</sup>M<sup>+</sup>U(宇奈月のグリーンスローモビリティ車両の愛称)を導入しています。グリーンスローモビリティの導入効果や苦労していることや課題などをお話し頂きました。

パネルディスカッションでは、東京都豊島区、静岡県沼津市、社会福祉法人みずうみ、京浜急行電鉄株式会社が参加し、「グリーンスローモビリティの事業化に向けて」をテーマに議論を行いました。皆さん、それぞれの地域でのグリスロ導入の理由や実証調査での課題などを発表していただき、最後には「今後、グリーンスローモビリティを活用して地域をどのようにしていきたいか」をパネルに書いて、掲げて頂き、地域への想いを熱く述べて頂きました。

またお越し頂いた方たちからも「今後、グリーンスローモビリティの導入を検討する上で、勉強になった」「実際に車両が見られて良かった」など喜んでいただきました。

今年度の国土交通省の実証調査事業も7月5日まで公募中です。引き続き、国土交通省ではグリーンスローモビリティの推進に向けた取組を行って参ります。



白熱のパネルディスカッション

## 「地域公共交通セミナー（春期）」を開催しました。

（中部運輸局 愛知運輸支局）

中部運輸局愛知運輸支局では5月13日（月）に地域公共交通セミナーを開催しました。

今回のセミナーは、地域の特性に応じた生活交通の確保維持を目指し、地方公共団体が中心となり、まちづくりと連携した面的な公共交通ネットワークを構築するとともに、地域に合ったより良い公共交通の未来に向け、関係者全員で議論を重ねながら地域公共交通会議を運営していくため、地方公共団体や交通事業者に必要な基礎的な知識の習得及び理解の深度化を目的として開催しており、当日は、地方自治体・交通事業者など79名の方々に参加いただきました。



【セミナーの様子】

### 1. 基調講演 大同大学 工学部建築学科 樋口恵一先生

樋口先生からは、地域公共交通は市政全般に係る重要な機能であり、都市計画や福祉との連携を図りつつ、交通分野における全体計画を策定する必要性や、住民の生活・都市運営に欠かせない地域公共交通を維持していくため、行政・交通事業者・住民の役割分担の整理、移動サービスとしての使いやすさの確認・改善、新たな需要の発掘などの重要性等について、参加者に分かりやすく講演いただきました。



【大同大学 樋口恵一先生】

### 2. 事例紹介「地域公共交通再編実施計画に基づく路線再編を経て」 日進市市民生活部生活安全課

日進市からは、再編実施計画策定までの過程、見直しのポイント、再編実施後の利用状況、効果等について説明いただきました。また、市の複数部局間や外部団体との連携により実現したイベントや広報活動の事例の紹介、特に、日進市出身の声優をバス車内のアナウンスに起用したことにより、観光客の取り込みに成功したことについて、詳細に説明いただきました。



【日進市 小池健太郎係長】

そのほか、愛知県都市整備局交通対策課から、望ましい公共交通体系の姿を示した「あいち公共交通ビジョン」について、愛知運輸支局担当官から「バスの運行に関する法令規則等」、「地域公共交通確保維持改善事業」など道路運送法、補助制度等に関する説明があり、参加者からは法令等の知識の習得ができ良かったとの意見をいただきました。

また、シンポジウム終了後には、自治体や事業者の方が抱える具体的な問題に対応するべく個別相談会を実施。自治体を中心に計画策定や2次交通に関する質問が寄せられ、個別ブースに分かれて本局・支局職員との質疑応答、意見交換が行われました。

中部運輸局では、今後も地域全体の地域公共交通への意識・取組みの底上げを図るべく、地域公共交通セミナーをはじめ様々な取組みを継続して参ります。



【個別相談会の様子】



## 「視覚障がい者サポート講座」を開催しました。

(四国運輸局)

四国運輸局では、令和元年6月17日(月)、JR高松駅構内において、運輸局職員を対象とした「視覚障がい者サポート講座」を開催しました。

本講座は、香川県視覚障害者福祉センター及びJR四国のご協力をえて実現。四国運輸局職員18名が参加し、高松駅構内でホームや列車を使って、視覚障がい者疑似体験や介助方法を学びました。

まず参加者は、疑似体験ゴーグル(視野狭窄・白内障状態)を着用して駅構内を歩いたり、券売機や改札口、列車案内の電光掲示を確認したりしました。

その後、障がい者役とサポート役でペアになり、ホームを歩いたり、停車中の車両への乗降体験を行うとともに、その時に必要な声かけやサポート方法を学びました。

体験して初めてわかる見えにくさ、そこからくる不安。足元もおぼつかず、腰も引けてしまいます。

そのような時の声かけが、いかに安心につながるか、「体験」ではありますが、参加者は身をもって実感できたようです。

【参加者の感想をいくつか紹介します。】

- ・周囲が見えづらい状態で移動することが、いかに不安なのか実感しました。段差が無いなら無いことや、その距離を伝える必要があるということを知ることができました。
- ・普段『目の不自由な方』と一括りで考えており、色度・明度等にも違いがあるという点を改めて意識する良い機会となりました。
- ・手引きする際には、相手の立場になって対応することがまず大切ということ学びました。今回の講座で学んだことを生かして、視覚障がい者の方が困っている場面に出会ったら状況に応じて、手引きや見守りを実施したいと思います。

来る2020東京オリンピック・パラリンピックを控え、昨年にはバリアフリー法が改正され、「心のバリアフリー」が国民の責務とされたところです。また、高齢者、障がい者等が安心して日常生活や社会生活を送るためには、施設や車両の整備(ハード面)だけでなく、高齢者、障がい者等に対し私たちが自然に快くサポートできる環境づくりも重要になってきます。

そういった点でも、本講座は職員が障がい者の不自由さを理解し、どのようにサポートすればよいのかを考えるいい機会になったと思います。同時に、本講座で体験したことや得られた気づきを、今後の障がい者をはじめとする移動制約者に対する各種施策に反映できればと考えております。



おそるおそる歩みを進めます

見やすい電光掲示も、ゴーグルをつけると…



「降りますよ」声かけをしてサポート

## のりたろうも大活躍！「第19回 スルッとKANSAI バスマつり」

(近畿運輸局)

6月16日(日)に京都市の岡崎公園にて「第19回 スルッとKANSAI バスマつり」が開催されました。バスマつりは、スルッとKANSAI 加盟のバス27台が大集合する大規模イベントで、例年バスの日に合わせて9月に開催されていましたが、昨年、一昨年と台風により中止となり、今年は開催を6月に変更して行われました。満を持して3年ぶりの開催、場所も平安神宮の真ん前ということもあり、来場者はおよそ2万6千人にのびりました。今年こそは「三度目の正直！」と意気込んで臨みました。



近畿運輸局は自動車交通部旅客第一課がバス運転士の人材募集の為のブースを出展。さすがにバス好きが集まるイベントだけあり、用意された各社のパンフレットは飛ぶように売れていました。当局は展示された京都バスさんのノンステップバスをお借りして「心のバリアフリー教室」を行いました。教室では参加したファミリーの皆さんに向け、京都バスさんよりバスのバリアフリーを紹介していただき、京都府視覚障害者協会・坂本さんより当事者としてのお話をさせていただきました。また、アイマスクと白杖を使った視覚障害の疑似体験、介助体験を行い、多くの方が高齢者や障害者が困っている時に「何かお手伝いしましょうか」と声をかけたい、と感想を寄せていただきました。



バリアフリー教室の様子

当日は、のりたろうも登場し、バリアフリー教室参加のみなさんとの記念撮影をしたり、ステージに登場してバリアフリー教室の告知、公共交通利用促進のPRを行いました。自動車交通部からはなんと部長自らステージに上がり、京都市副市長との見事な掛け合いで「バス運転士さんの仕事の魅力」を伝えました。



教室参加者と記念撮影するのりたろう

バス運転士・人材募集ブースの様子



右から自動車交通部長、京都市副市長



ステージでしっかりPR

また、のりたろうは、バスまつりに参加した他のゆるキャラとともにステージイベント「ゆるキャラ大集合」にも登場しました。各キャラクター登場の際にはアナウンサーによる紹介もあり、のりたろうのプロフィール、特徴などをしっかりPRさせていただきました。のりたろうも「みんな、バスに乗るにゃ！困っているお年寄りや体の不自由な方などをみかけたら、何かお手伝いしましょうかと声をかけるにゃ！」とイベントを盛り上げました。ステージの周りは人だかりとなり、観客のみなさんも写真をバシバシ撮影されていました。気をよくしたのりたろうは元気いっぱいステージで動き回り、耳をぴこぴこ動かしてファンサービス。「のりたろう盛り盛りやな〜！」「かわいい！」と歓声を浴びていました。のりたろう含め近畿運輸局のメンバーにとっても充実した一日となりました。

ゆるキャラ仲間のパースケ（阪急バス）と



ゆるキャラ大集合！

ちゃっかりセンターを陣取るのりたろう



ギャラリーの熱気に圧倒されるゆるキャラたち



教室参加者に配付した豪華なのりたろうグッズ

## 『のりたろう』船旅・公共交通の関心度アップに貢献！ in 関空旅博2019

(近畿運輸局)



去る5月18日(土)、19日(日)に関西国際空港で開催された『関空旅博2019』において、『関西クルーズ振興協議会(事務局:近畿運輸局)』ではブース出展及びクルーズセミナーを行いました。

今年で15回目を迎える関空旅博は、毎年多くの来場者で賑わうイベントとなっており、当協議会では第1回目の開催から休むことなく皆勤賞を続けております。

当協議会ブースでは、クルーズ客船による船旅だけではなく、より多くの来場者に船旅の魅力を発信すべく、クルーズ客船のパンフレットに加えフェリーや観光船のパンフレットを配布するとともに、船長服の着用体験・記念撮影及び撮った写真をその場で缶バッジにしてプレゼントするというコーナーを設けました。缶バッジ作成の待ち時間にもしっかりと『船旅』の魅力をお伝えして参りました。



しっかりとお仕事しています『のりたろう』



来場者で賑わうブースの様子

また、『関空旅博』では『ゆるキャラ大集合』という大人気イベントがあります。我々が公共交通機関利用促進キャラクター『のりたろう』もステージに上がって、公共交通機関の利用促進をしっかりとアピールしてくれました。『のりたろう』の登壇は今年で2回目とあって、昨年よりも認知度が上がっていた印象でした。来年以降も継続的に関空旅博に参加してもらって、一緒に関西地方での公共交通機関利用促進に貢献していきたいと思っております。



## のりたろう活動報告（第12回やまぐちバス博&平成31年度公共交通マナー アップキャンペーン）

（中国運輸局）

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」は、公共交通の利用促進のために全国を飛び回り、イベントを盛り上げる日々を過ごしています。この春4月には、山口県に初登場し宇部市及び防府市で開催した各イベントで大活躍でした。

### 第12回やまぐちバス博

開催日：平成31年4月21日（日）

場所：フジグラン宇部店

主催：みんなが利用したくなる生活交通推進会議



山口県観光宣伝部長「ちよるる」、宇部市イメージキャラクター「チョコクン」、JR西日本踏切事故防止キャラクター「ストップくん」と一緒に、会場を盛り上げました！

また、新社会人や新入生など新しく公共交通を利用する人が増える4月に、中国運輸局では鉄軌道、バス、タクシー、旅客船事業者や関係団体と連携し、「公共交通の心地よい空間づくり」を目指して、中国各地で公共交通機関内でのマナーアップを呼びかけるキャンペーンを実施しています。

### 平成31年度マナーアップキャンペーン

日時：平成31年4月23日（火）

場所：JR防府駅

参加団体：交通事業者（西日本旅客鉄道㈱、防長交通㈱、中国ジェイアールバス㈱、有野島海運、山口県バス協会、山口県タクシー協会、山口県、防府市（共催）山口運輸支局



防府観光マスコットキャラクター「ぶっちゃん」も呼びかけを共に行いました。

セルビアホストタウン推進事業マスコットキャラクター「セルビー」も飛び入りで参加し、女子高校生を始めとした通行人に「かわいい！」と大人気でした。

## < 掲 示 板 >

### ☆ 地域公共交通支援センター

交通政策課では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

### ☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

#### 公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので 100 歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて 1 名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

#### 【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局交通政策課 梅澤  
〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8986（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: [koutsukeikaku\\_joho@mlit.go.jp](mailto:koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp)

#### ★国土交通省HP（情報発信のページ）

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei\\_transport\\_tk\\_000039.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html)

